

第1回  
(仮称)産業ミュージアム基本構想・基本計画  
検討会資料

令和7年5月8日

# 目次

## 1 史跡公園(仮称)整備について

- 1-1 どんな公園に整備するのか？
- 1-2 整備エリアの範囲は？
- 1-3 整備エリアはどんな場所なのか？
- 1-4 「板橋火薬製造所」の特徴は？
- 1-5 整備に関わる担当部署は？
- 1-6 整備地へのアクセスは？

## 2 (仮称)産業ミュージアムの整備について

- 2-1 整備する目的は？
- 2-2 どの建造物を整備するのか？
- 2-3 整備地と「産業」との関係は？
- 2-4 旧板橋分所の建造物を選んだ理由は？

- 2-5 「爆薬理学試験室」の特徴は？
- 2-6 「物理試験室」の特徴は？
- 2-7 オープンまでのスケジュールは？
- 2-8 どんなミュージアムを目指すのか？

## 3 産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会について

- 3-1 検討会の位置づけ
- 3-2 委員の役割
- 3-3 基本構想・基本計画策定の進め方
- 3-4 開催スケジュール
- 3-5 委員一覧

# 1 史跡公園(仮称)整備について

# 1-1 どんな公園に整備するのか？

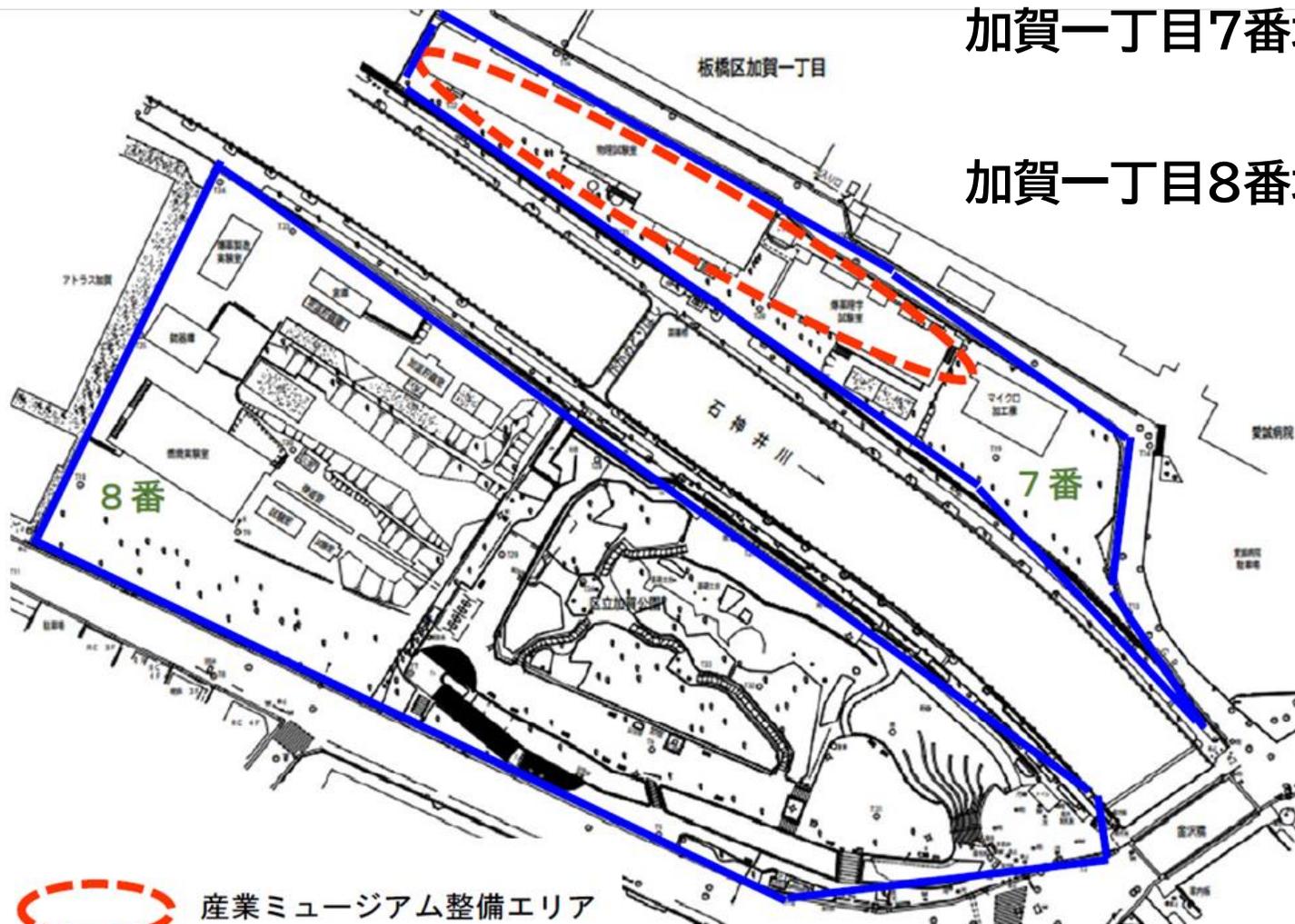
板橋区史跡公園(仮称)は、板橋区加賀に所在する**国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」**を**整備**し、当時の遺構や建造物を含めて**公開**を行う歴史公園です。

現在は、「板橋区史跡公園(仮称)基本構想(平成29年8月策定)」が掲げる**「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」**というコンセプトのもとで、**令和11年度中のグランドオープン**に向けて、計画の策定や調査研究を進めています。



整備イメージ(板橋区史跡公園(仮称)基本構想より抜粋)

# 1-2 整備エリアの範囲は？



加賀一丁目7番地(一部)⇒石神井川北側

+

加賀一丁目8番地(一部)⇒石神井川南側

※史跡公園整備エリアの  
総面積(約12,000㎡)は、  
昭和18年時点の板橋火薬  
製造所エリアの2.5%程度  
です。

 産業ミュージアム整備エリア

 史跡公園整備エリア

# 1-3 整備エリアはどんな場所なのか？<sup>①</sup>板橋<sup>②</sup>区

(1) 史跡公園を整備する国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」のエリアは、江戸時代から明治初期まで、広大な**加賀藩前田家の下屋敷**の一部でした。

(2) ここには、明治9(1876)年に明治政府が建設した近代的かつ国内有数の**官営火薬工場の遺跡**が残っています。

(3) しかも、当時の建造物や遺構が**集中的に残存し、比較的良好な状態**で現存しているのが特徴的です。

(4) そのため、火薬研究所の研究内容やその発展過程を理解するに十分であり、**科学技術史上の価値が高い**場所となっています。

(5) 平成28年には、**板橋区が公有化**を進めるとともに、当地を都内初の近代史跡、近代化遺産を中心とする「史跡公園」として保存・活用を行うことを決定しました。

(6) 平成29年10月に**国史跡に指定**されています。



# 1-4 「板橋火薬製造所」の特徴は？ 板橋区

(1)明治9年、明治政府は、**軍事力の一元的掌握**のために**首都近郊の板橋**に火薬製造所を設置しました。(終戦まで稼働)

(2)当地は、**石神井川を水車の動力に利用**できることから、**火薬製造所の建設適地**にもなっていたのです。また、火薬が爆発する危険性を考慮して、石神井川両岸の谷底低地(こくていていち)を選んだとも言われています。

(3)電氣的な精密測定機械を利用した鉄砲弾の初速測定によって火薬の品質を一定にする技術は国内初であり、**先進的な測定技術**が火薬生産へ導入されました。

(4)現存する**射場<sup>しゃじょう</sup>は国内最古**の施設で、日本における**火薬生産技術の近代化を象徴**しています。

(5)明治36年(1903)、国内初の理工学系研究所(=陸軍火薬研究所)が設置され、火薬製造だけでなく、火薬・爆薬の**研究開発の拠点**にもなり、**近代科学技術の進展に寄与**しました。

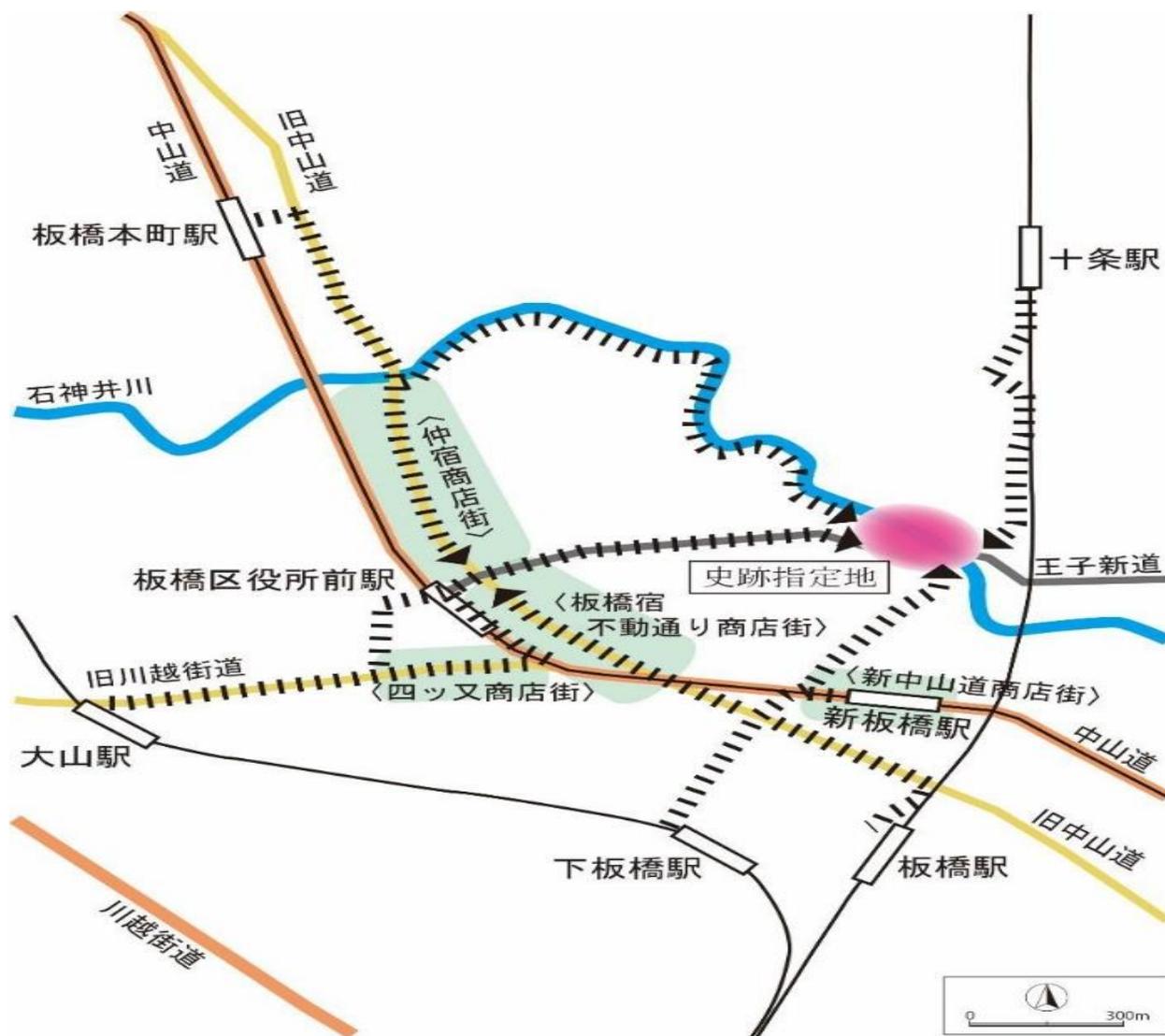
# 1-5 整備に関わる担当部署は？

No.	015	事業名	近代化遺産としての史跡公園整備
担当部課	教育委員会事務局 史跡公園担当課、産業経済部 産業振興課、土木部 みどりと公園課		
事業概要	<p>国の史跡に指定された板橋火薬製造所が持つ歴史的価値を活かし、近代化遺産としては日本初となるBIMを活用した整備・展示手法を構築するなど、都内初となる近代化・産業遺産を保存・活用した史跡公園を整備し、板橋ブランドの強化に取り組めます。</p>		
	SDGsの視点	<p>国史跡の「陸軍板橋火薬製造所跡」を歴史・文化・産業を体感できる公園として整備します。</p>	
	施策	<p>地域の歴史・文化の保全・継承・活用の推進</p>	
	事業の成果	<p>板橋ブランドの創造、交流人口の増加、社会教育の推進</p>	



※史跡公園(仮称)整備は、板橋区基本計画2025に基づく施策を着実に推進していくためのアクションプログラム【いたばしNo.1実現プラン2025改訂版(令和3年1月作成)】の実施計画事業の1つに位置付けられています。

# 1-6 整備地へのアクセスは？



- ・都営三田線新板橋駅(指定地からの直線距離約450m、以下同じ)
- ・都営三田線板橋区役所前駅(約1,000m)
- ・都営三田線板橋本町駅(約1,600m)
- ・東武東上線下板橋駅(約950m)
- ・東武東上線大山駅(約1,700m)
- ・JR埼京線板橋駅(約800m)
- ・JR埼京線十条駅(約850m)

## 2 (仮称)産業ミュージアムの 整備について

## 2-1 整備する目的は？

**旧理化学研究所板橋分所**（以下「旧板橋分所」）の建造物を（仮称）産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」）として整備することで、同建造物が持つ文化的価値と歴史的ストーリーを背景とした**区産業の歴史と先進性**を区内外に発信し、**板橋の産業ブランドの向上**を図っていくことを目的としています。

## 2-2 どの建造物を整備するのか？

史跡公園整備エリアの国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」には、戦前の明治後期や昭和初期に建てられたものと推定され、戦後に**旧板橋分所として使われた建造物**が現在も残っています。

産業ミュージアムは、旧板橋分所跡地の文化財建造物「**爆薬理学試験室**」と「**物理試験室**」をそのまま活用して整備します。

※P5「1-2 整備エリアの範囲は？」を参照

## 2-3 整備地と「産業」との関係は？

国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」のエリアを含む加賀一帯には、**明治初期から終戦まで近代的な火薬製造所・研究所が設置**されていたため、その周辺の東京北西部には、全国最大規模の陸軍の軍事施設が集中していました。

これら施設の展開と関東大震災以降に進められた帝都復興計画は、近接する**区内志村周辺に多数の関係工場の成立・展開を促す契機のひとつ**となり、現在に至るまで、志村周辺が光学産業の先端地域として、板橋区の地場産業を牽引してきたことにも繋がっています。

当地は近代的な火薬製造所に関連する施設といった役割を担いながら、**「ものづくり板橋」を形成する原動力**の1つとなった場所であるため、板橋区では、**「区産業の発展に大きく寄与した地」**として高く評価しています。

## 2-4 旧板橋分所の建造物を選んだ理由は？

終戦によって陸軍板橋火薬製造所の活動が終了したことに伴い、その**跡地には** **研究所や学校、工場などが入居**することとなり、現在につながる加賀地域が形づくられました。

その中でも、石神井川北側の**旧板橋分所**は、昭和21年から平成27年までの69年間、仁科芳雄や彼に学んだ湯川秀樹などの**ノーベル物理学賞受賞者**を含む多くの研究者が**宇宙線研究をはじめとする基礎研究**に取り組んだ場所となっています。

そのため、旧板橋分所には、**日本物理学界の中心的な場所**として**日本の科学技術を進歩させた**理研研究員たちの足跡が積み重なっており、**産業の発展や新たな産業創出との関りが深く**、大変貴重な場所なのです。

## 2-5 「爆薬理学試験室」の特徴は？

建築年代 昭和9年(1934)から昭和12年の間

構造 鉄筋コンクリート造平屋建、地下1階建

用途 火薬製造所時代は、特に爆薬に関する何らかの実験が行われた施設でしたが、資料的制約から詳細は不明です。

広さ 354.25㎡



## 2-6 「物理試験室」の特徴は？

**建築年代** C棟:昭和13年(1938)、D棟:明治40年(1907)、E棟:昭和6年  
※東西に構造の異なる 3 棟が連結しており、便宜的に東からC、D、E 棟と称しています。

**構造** C棟:鉄筋コンクリート造平屋建、  
D棟:煉瓦造平屋建、  
E棟:鉄筋コンクリート造

**用途** 戦前は、火薬研究所の研究棟として使用された施設で、火薬の密度や粒度に関する物理試験が行われていました。

**広さ** 613.42㎡



## 2-7 オープンまでのスケジュールは？

令和7年度 産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定

令和8年度 建造物内部の整備デザインの検討

令和9年度 基本設計

令和10年度 実施設計

令和11年度 整備工事、グランドオープン

## 2-8 どんなミュージアムを目指すのか？

産業ミュージアムは、新たに建造物を建設するのではなく、**国史跡内に立地した文化財価値のある建造物を整備**することを踏まえ、区では、いわゆる街中の**博物館法に基づくミュージアム**などとは**差別化を図り、板橋ならではのミュージアム**を検討していく必要があると考えています。

令和7年度では、「**区産業の発展に大きく寄与した地**」「**基礎研究の場**」「**日本物理学会の中心的な場所**」であることを念頭に置きながら、板橋の産業ブランドの向上を図っていくためのコンセプト、具体的な機能を整理し、基本構想・基本計画を策定していきます。

# 3 産業ミュージアム 基本構想・基本計画検討会について

## 3-1 検討会の位置づけ

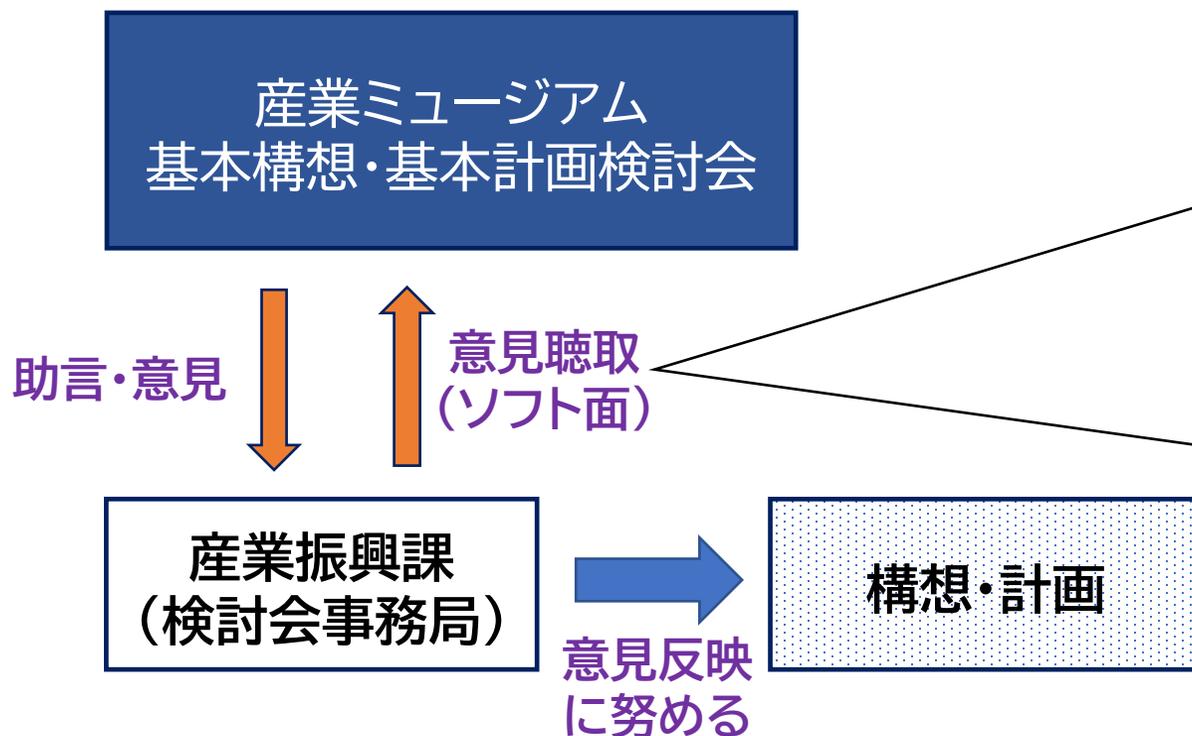
産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定に当たり、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」を活用した板橋の産業ブランドの向上に関して**専門的な知見等に基づく意見を聴く**ため設置しました。

区は、基本構想及び基本計画の策定に当たり、検討会で聴取した意見を十分に考慮するとともに、**基本構想及び基本計画に反映**させるよう努めます。

※検討会設置要綱第1条・第7条より抜粋

## 3-2 委員の役割

事務局から基本構想・基本計画(案)をお示しいたしますので、各専門分野での知見等に基づく**助言・意見**をお願いいたします。



### 意見聴取の内容(イメージ)

- 第2回検討会

『この基本構想(案)のもとで考えられる具体的な事業例は?』 他

- 第3回検討会以降

『この事業に区内企業を巻き込むためには?』

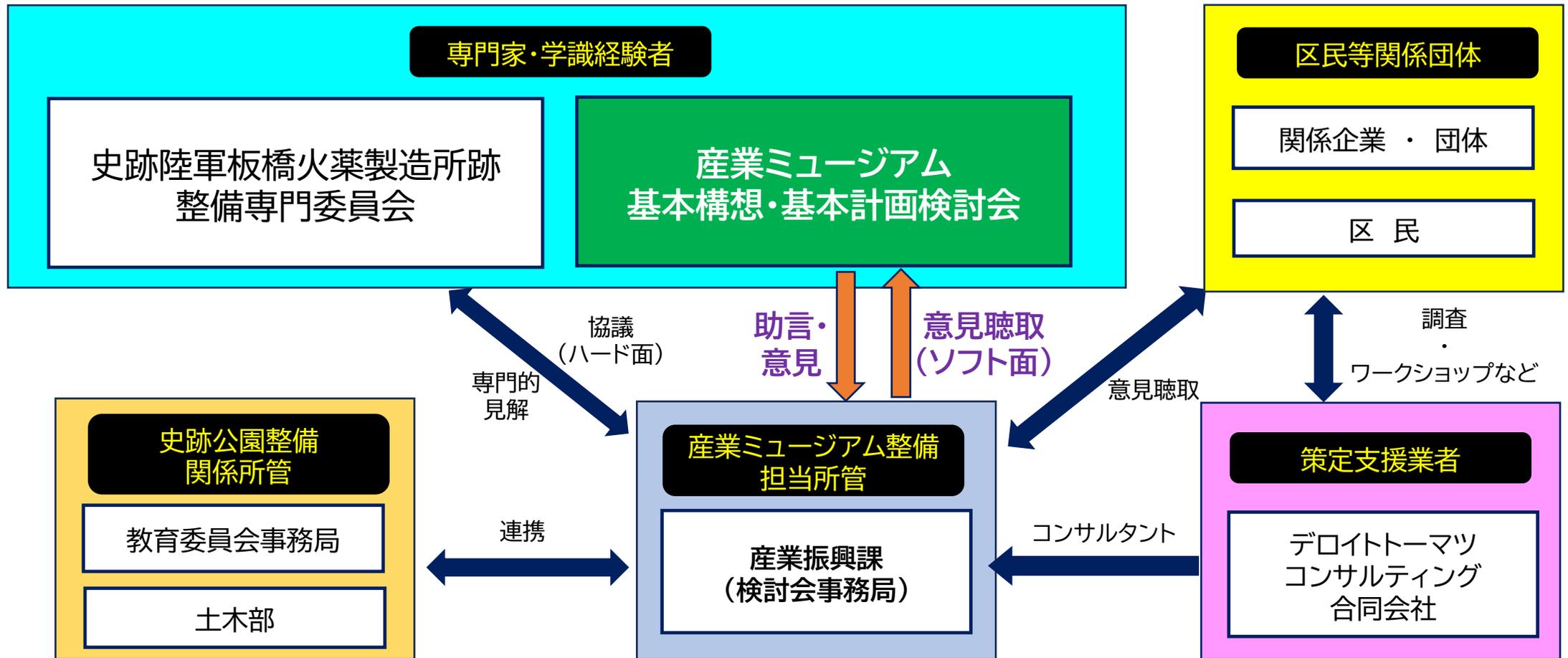
『理系人材の強化プログラムに取り組むためにはどんなことを準備すればよい?』

『光学やものづくりの魅力を伝えるためには?』

『より分かりやすく宇宙線研究の魅力を区民に伝えるためには?』

『この部屋で〇〇事業をするにあたり、効果的な活用方法や注意点は?』 他

# 3-3 基本構想・基本計画策定の進め方



策定・公表 (令和8年3月)

## 3-4 開催スケジュール

開催時期	回数	主な議題
5月 8日(木)	第1回	産業ミュージアムの整備概要について ほか
5月19日(月)	第2回	基本構想(案)
6月下旬～7月上旬	第3回	基本構想(最終案)、今後検討していく機能について
8月下旬～9月上旬	第4回	基本計画(骨子案)
10月下旬～11月上旬	第5回	基本計画(素案)
12月上旬～12月中旬	第6回	基本計画(最終案)

検討会(1回あたり2時間程度)は、平日9時から17時までの時間帯で、板橋区役所等の会議室で開催

## 3-5 委員一覧

No	氏名	所属
1	大森 整	特定国立研究開発法人理化学研究所主任研究員
2	加藤 美砂子	国立大学法人お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所所長
3	塔 隆志	国立大学法人東京大学宇宙線研究所高エネルギー宇宙線研究部門 教授
4	下村 基子	理研計器株式会社管理本部経営企画部 副部長兼経営戦略課長
5	槌田 博文	チームオプト株式会社代表取締役社長／一般社団法人日本光学会理事
6	富田 克則	株式会社トプコン総務・人事・法務本部総務部総務課プロフェッショナル

委嘱期間 令和7年4月23日から令和8年3月31日まで

(50音順)